

## 地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	鳥取県	事業実施主体	鳥取県、鳥取市、岩美町	地域再生計画名	地域の活力を生み出すみなとづくり計画
計画期間	令和4年度～令和10年度	評価責任者	鳥取県県土整備部河川港湾局港湾課長、鳥取市農林水産部林務水産課長、岩美町農林水産課長		

計画外で独自に実施した事業	田後港大漁感謝祭	県内有数の松葉ガニの産地となっている田後漁港で毎年11月に行われるイベント。かに汁の無料配布や地場水産物の販売等を実施し、地域活性化を目的として開催している。	令和6年度は、11月16日に第25回田後港大漁感謝祭が開催され、約1,000人程度の来場者が訪れた。
	魚食普及活動強化推進事業	県産魚の消費拡大や魚価向上に資するための魚食普及活動（エリア拡大、対象拡大、内容充実等）に必要な経費を支援する。	漁協女性部、魚食普及グループが実施する魚食普及活動の取組に対して必要な経費の支援を行った。
	鳥取県山陰海岸ジオパーク魅力活用総合補助金	山陰海岸ジオパークにかかる産業振興、ジオツーリズムの振興、受入れ態勢の向上のための事業に必要な経費を支援し、山陰海岸ジオパークの取り組みの推進を図ることを目的とする。	本市における山陰海岸ジオパークの魅力活用に向けた取組を促進するため、産業振興、ジオツーリズムの振興、受入れ態勢の向上、普及・啓発の促進につながる事業に必要な経費への支援を行った。 今後も引き続き、山陰海岸ジオパークの魅力活用に向けた取組に対する支援を行っていく。
	「山陰海岸ジオパーク」の魅力向上・発信による地域活性化プロジェクト	鳥取砂丘の新たな魅力発信拠点「鳥取砂丘ビジターセンター」を事業拠点に、山陰海岸ジオパークエリアの各ジオスポットの広域的な情報発信や鳥取砂丘をはじめとするジオスポットの魅力向上、ジオツーリズムを核とした海外プロモーション等を実施し、観光客の拡大を図る。また、山陰海岸ジオパークの優れた自然環境を生かした体験学習会を開催し、地元愛の醸成、人材育成に取り組む。（地方創生推進交付金）	山陰海岸ジオパークの各ジオスポットを紹介・説明する看板を設置、また、パンフレットやウォーキングコースのチラシを作成した。また、「鳥取砂丘ビジターセンター」や「青谷郷土館」を拠点として、山陰海岸ジオパークエリアの各ジオスポットの広域的な情報発信やジオツーリズムを核としたプロモーション等を実施し、観光客の拡大を図った。さらに、山陰海岸ジオパークの優れた自然環境を生かした小学生の校外体験学習会を開催し、地元愛の醸成、人材育成にも取り組んだ。 今後も引き続き、効果的な魅力発信を行っていく。
	「麒麟のまち」 產品のブランド化・販路拡大による産業振興プロジェクト	「麒麟のまち関西情報発信拠点」を事業拠点に、地域商社を事業推進主体とし、農林水産品や伝統工芸品等の地場產品のブランド化・販路拡大による産業振興、また、最大の魅力資源である「食」を通じた魅力発信による交流人口の拡大を図るなどし、麒麟のまち圏域の一体的な活性化を目指す。（地方創生推進交付金）	令和3年度までは「麒麟のまち関西情報発信拠点」の事業実施主体（管理運営）を「地域商社」とりが担い、その販売促進力や県内外の企業とのネットワークを活用し、販路拡大や市場ニーズを踏まえた新商品開発、既存商品のブランド化を一体的に実施するとともに、関西圏のファンを獲得し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図った。 令和4年度からは管理運営業者が他業者に変更となり、地域商社が事業推進主体ではなくなりましたが、物販や仕入れの流通においては一部地域商社を活用している。
	③評価方法	鳥取県、岩美町及び鳥取市が必要な統計調査や聞き取りを行い、速やかに状況を把握する。	
④中間評価の公表方法	鳥取県総合統括課のホームページに掲載		
⑤計画全体の総合評価	本計画は、港湾及び漁港の一体的な整備によって、漁業就業者の就労環境の改善や出漁機会の増加を図り、漁業所得の向上や漁業者数の維持を目的としている。 なお、指標2の漁業者数の維持については、現時点で目標達成の見込みが厳しい状況にあるが、少しでも漁業者数減少に歯止めがかかるよう、引き続き計画に沿って整備を推進していく。		
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況  地域再生計画の見直し（有・無） 令和8年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円		有りの場合その具体的な内容
⑦今後の方針等に対する対応	引き続き計画に沿って整備を推進していく。		